

ご使用に際し、この添付文書は必ずお読みください。
また、必要な時に読めるよう大切に保管してください。

2012年4月：記載要綱変更に伴う改訂

第②類医薬品

鎮痛薬

アセドリン



使用上の注意

してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと

- (1)本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (2)本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
- (3)15歳未満の小児。
- (4)出産予定日12週以内の妊婦。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないこと

他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬

3. 服用前後は飲酒しないこと

4. 長期連用しないこと

相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

- (1)医師又は歯科医師の治療を受けている人。
- (2)妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3)授乳中の人。
- (4)高齢者。
- (5)薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (6)次の診断を受けた人。

心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 服用後、次の症状があらわれた場合には直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ、青あざができる
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振、胸やけ、胃もたれ、腹痛、下痢、血便、胃腸出血
精神神経系	めまい
その他	鼻血、歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、出血、発熱、のどの痛み、背中・脇の痛み、過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診察を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息くるしさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死融解症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューとなる、息苦しい等があらわれる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっとする、血尿等があらわれる。

3. 5～6回服用しても症状が良くならない場合は服用を中止し、医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

【効能・効果】

- (1)頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛
- (2)悪寒・発熱時の解熱

【用法・用量】

次の1回量を1日3回を限度とし、なるべく空腹時を避け、水又はお湯で服用すること。服用間隔は4時間以上おくこと。

年 齢 区 分	服用量(1回量)	年 齢 区 分	服用量(1回量)
15歳以上	2錠	15歳未満	服用しないこと

(用法・用量に関連する注意)

定められた用法・用量を厳守すること。

【成分・分量・はたらき】1日量6錠(2,040mg)中

成 分	分 量	は た ら き
アスピリン	1,000mg	炎症を抑え、頭痛、歯痛、関節の痛みを抑えます。
アセトアミノフェン	670mg	また、発熱、悪寒の解熱作用も優れています。
無水カフェイン	90mg	痛みを抑える働きを助け、頭痛を和らげます。

添加物:乳糖水和物、カルメロースカルシウム、アラビアゴム末、ステアリン酸マグネシウム

【保管及び取扱上の注意】

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること。
2. 小児の手の届かない所に保管すること。
3. 他の容器に入れ替えないこと。(誤用の原因になったり品質が変わる)

お問い合わせ先
製造販売元 西海製薬株式会社
住 所 佐賀県三養基郡基山町大字宮浦192番地
電話番号 0942-92-2303(代)
受付時間 9:00～16:00(土、日、祝日を除く)